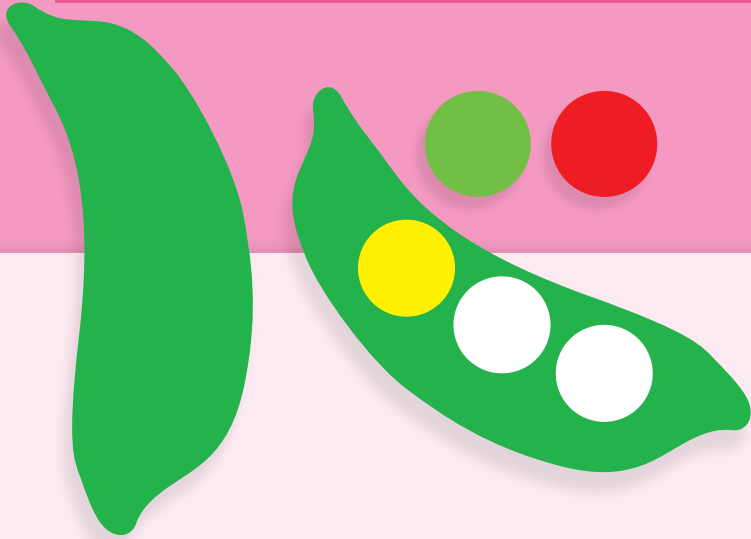


いきがい・助け合いサミット in 東京

共生社会をつくる地域包括ケア ～生活を支え合う仕組みと実践～



申し込み用
パンフレット

定員になり次第
締め切ります



グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール

会場参加とオンラインによる
ライブ配信の併用により開催します

大阪（ホップ）、神奈川（ステップ）での提言を受ける「いきがい・助け合いサミット」の集大成！住民主体の「地域共生社会」実現に向けて、ジャンプしましょう！

開催日：2022年 **9月1日** [木] ～ **2日** [金]

会 場：**グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール**
(東京都港区高輪3-13-1)

定 員：会場参加 1,500名 / オンライン視聴 3,000名

参 加 費：資料代としてお1人2,000円(会場参加、オンライン視聴共に変わりはありません)

申し込み期間：2022年5月16日(月)～8月1日(月) (ただし定員になり次第締め切ります)

主な
対象

生活支援コーディネーター、協議体構成員、地方自治体、社会福祉協議会、地域包括支援センター等の地域づくり関係者、国・関係機関・NPO・民間団体の関係者等、助け合い・支え合う地域づくりに関係する方、その他関心を持つ一般住民 など

参加のお申し込みは
11ページをご確認ください

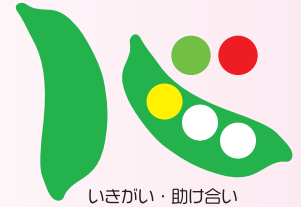
いきがい・助け合いサミット in 東京

地域共生社会に向かって、みんなでジャンプ!!

誰もが、自分を生かして幸せに暮らす社会へ

日本社会はいま、誰にも優しい地域共生社会に向かって大きく転換しようとしています。経済成長絶対・自己責任の社会の厳しさ、冷たさに、心ある人々が耐えられなくなってきたためです。

その転換の先頭に立って、一人残さずいきがいを持って助け合う地域を創り出そうと頑張っているのが、生活支援コーディネーターや協議体のみなさん、行政、社協、包括の担当者、民生委員、自治会役員、NPOなどの志ある方々です。



この重要な、難しいけれどもやりがいに満ちた任務をしっかり果たしたいとの思いで、3年前に初めて開いた大阪サミット、そしてコロナ禍の中、昨年開いた神奈川サミットには、3,000人を超える方々が参加しました。そこで生まれた絆は、各地に情報交換のネットワークを生み出し、**新地域支援事業を着実に進め、住民の活力といきがいを引き出す原動力**となっています。

今年の東京サミットは、いよいよ、総仕上げです。すべての住民が明るく、自分らしく、いきいきと生きることのできる日本社会の実現に向けて、みんなで、思い切りジャンプしましょう。しっかり、手をつなぎ合って!

主催者 公益財団法人さわやか福祉財団

伴走支援が大事。住民ファーストの重要性にあらためて気付かされました。

オンライン参加でしたが、普段聞けないジャンルの方のお話が聞けて、**視野が広がりました。**

神奈川サミット 参加者の声

内容盛りだくさんで、**学ぶことや再認識することがいっぱいありました。**

事前に資料に目を通して参加することができ非常に助かりました。**我が地域に置き換えながら参加させて頂くことができました。**

多様性とは、寛容性とは、地域とは、生きるとは…。**誰かが誰かの支えになれる社会、助けてと言える社会を考えていきたい。**



ポスター展示に寄せられた 皆さまの声

さまざまな地区の取り組みを勉強できて、**とても勉強になりました。明日からの活動に生かしていきたい**と思います。

後援(予定)

厚生労働省 東京都 (社福) 全国社会福祉協議会 日本生活協同組合連合会
(一社) 日本協同組合連携機構 (一社) 全国農業協同組合中央会 (公財) 全国老人クラブ連合会
(特非) 高齢社会をよくする女性の会 (公社) 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

(社福) 東京都社会福祉協議会 (一社) 医療介護福祉政策研究フォーラム (特非) 地域共生政策自治体連携機構 (特非) 日本NPOセンター 高齢社会NGO連携協議会 日本退職者連合 (一財) 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 国際長寿センター (日本) (一財) 健康・生きがい開発財団 (認定特非) サービスグラント (特非) 全国移動サービスネットワーク (特非) ニッポン・アクティブライフ・クラブ にっぽん子ども・子育て応援団 (認定特非) 日本ファンドレイジング協会 (特非) 全国コミュニティライフサポートセンター (公財) 公益法人協会 (公社) 日本フィランソロピー協会 小規模多機能自治推進ネットワーク会議 (一社) シニア社会学会 (公財) Uビジョン研究所 日本障害フォーラム

(公社) 日本医師会 (公社) 日本看護協会 (公社) 日本社会福祉士会 (公社) 日本介護福祉士会 (一社) 日本介護支援専門員協会 (公社) 全国公民館連合会 全国自治会連合会 (公社) 日本理学療法士協会 (一社) 日本作業療法士協会 (一財) 高齢者住宅財団 (一社) 高齢者住宅協会 (一財) 年金住宅福祉協会

(一社) 日本経済団体連合会(経団連) 日本労働組合総連合会(連合)

(順不同)

プログラム

9月1日 (木)

12:30~12:50 オープニングイベント
13:00 開会
13:05~15:00 全体シンポジウム
15:30~17:30 第1部パネル 分科会1~13 (13テーマ)
18:00~19:00 大交流会

※大交流会の開催可否は7月1日(金)に判断します。11ページをご覧ください。

9月2日 (金)

9:00~11:00 第2部パネル 分科会14~25 (12テーマ)
11:00~13:00 ポスターセッション・昼食
13:00~15:00 第3部パネル 分科会26~37 (12テーマ)
15:30~16:30 全体発表会
16:30 閉会

オンデマンド 配信の お知らせ

「いきがい・助け合いサミット in 東京」の全体シンポジウムとすべての分科会のオンデマンド配信を行います(配信予定時期:11月頃、期間:2週間)。
当日参加された皆様からの質問(一部)にお答えする内容等を加えて配信します。参加された皆様はすべてのプログラムの視聴が可能となります。

敬称略。生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)はSCと略しています。
肩書きは原則4月1日時点のものです。ただし、確認できている場合は最新の肩書きを掲載しています。
なお、プログラムの内容や登壇者等は変更となる場合があります。

全体シンポジウム

「地域共生社会への進展 ~住民主体で大ジャンプ~」

神奈川サミットでは、いきがいと助け合いは幸せな人生と社会に不可欠なことを確認しました。今回は一人残らずいきがいを持って助け合う地域共生社会をどうつくっていくかを豪華パネリストと共に掘り下げます。

〈パネリスト〉



宮本 太郎
中央大学
法学部教授



広井 良典
京都大学
人と社会の未来研究院教授



勝部 麗子
(社福)
豊中市社会福祉協議会
事務局長



高橋 由和
(特非)
きらりよしまネットワーク
事務局長

〈進行役〉



堀田 力
(公財)
さわやか福祉財団会長

分科会

本サミットならではの各分野を代表する素晴らしいパネリストの皆様による「37の分科会」を用意しました。充実した分科会テーマ、パネリストにご期待ください。

各分科会では、大阪サミット、神奈川サミットで議論した基本的課題、各論的課題に加えて、新たに「地域共生社会実現に向けた諸課題」について議論します。各分野の先駆者の考えや地域で活躍する実践者らからの経験や事例などに学び、これからについて共に考える貴重な機会です。

分科会の具体的なテーマ、進行役・登壇者等は、4ページから10ページをご覧ください。

大阪サミット、神奈川サミットから継続しているテーマの分科会は、関連する大阪、神奈川の各サミットの分科会番号を(例: **大阪** 分科会1、**神奈川** 分科会1)、新たなテーマの分科会は **新規** と表示していますので、ご参考にしてください。

分科会のお申し込みについては11ページをご覧ください。

分科会 1

新規 先進自治体の取り組む地域共生社会 ～自発的自律的な連携の動き～

■ 進行役

堀田 力 (公財) さわやか福祉財団会長



■ アドバイザー
広井 良典
京都大学人と社会の
未来研究院教授、
幸せリーグ顧問



■ アドバイザー
堀田 聡子
慶應義塾大学大学院
健康マネジメント研究科
教授

■ 登壇者

菅原 弘子 (特非) 地域共生政策自治体連携機構前事務局長

森 貞述 前高浜市長、
(特非) 地域共生政策自治体連携機構理事

北尻 光 幸せリーグ参加自治体 (京丹後市職員)

板持 周治 小規模多機能自治推進ネットワーク会議事務局 (雲南市職員)

全国の自治体が各地の実情に応じた**地域共生社会の創出・推進のためにどう連携し、情報共有していくか**を自治体連携の実践例から探る

分科会 3

住民のやらされ感を払しょくし、 信頼される体制をどうつくるか

■ 進行役

目崎 智恵子 (公財) さわやか福祉財団、高崎市第1層SC

■ 登壇者

松浦 博子 軽米町健康福祉課

中里 早苗 軽米町第1層SC

生方 由美子 高崎市第1層協議体メンバー

中家 裕美 岬町第1層SC

貝長 誉之 (社福) 太子町社会福祉協議会地域包括推進室長
(元第1層SC)

住民自身が話し合い、お互いを理解し、助け合いを形にしてきた複数の実例から、その**仕組みができたポイントは何か**を議論して共有する
(大阪 分科会3,45) (神奈川 分科会29,30)

分科会 5

2層協議体の構成と役割

■ 進行役

長瀬 純治 (公財) さわやか福祉財団

■ 登壇者

調整中

継続的な助け合い創出に向けた活動には、多様な視点を持つ協議体とSCの協働による推進体制が不可欠。各地における多彩な協議体の活動例をもとに、**実践的な方策**を共有する
(大阪 分科会4) (神奈川 分科会5)

分科会 2

生活支援を助け合い活動で行うには、 どうすればよいか

■ 進行役

清水 肇子
(公財) さわやか福祉財団
理事長



■ アドバイザー
松岡 洋子
東京家政大学
人文学部教授

■ 登壇者

澤出 桃姫子 日常生活支援 あつべつ・たすけ愛ふくろう代表

清水 孝子 各務原市八木山地区社会福祉協議会事務局担当

谷 仙一郎 (特非) 元気な仲間代表理事

西元 和代 地域の応援隊 和 代表

生活支援という継続的でやや重い支援活動を広く助け合いで行うにはどうすればよいかを豊富な実践例から探る
(大阪 分科会1)

分科会 4

目指す地域像の策定及び 実現のための工程表

■ 進行役

岡野 貴代 (公財) さわやか福祉財団

■ 登壇者

戸澤 真澄 大館市第1層SC

高崎市担当者

岡村 美花 武蔵村山市南部地域包括支援センター長

藤江 晃子 武蔵村山市第1層SC

小林 陽一 南アルプス市第2層SC

目指す地域像を共有し、これを目標としてどう戦略や工程を具体的に立てていけばよいか。住民ニーズに応える活動創出に取り組んでいる自治体を例に、その**ポイント**を学ぶ
(大阪 分科会5,37) (神奈川 分科会31)

分科会 6

ニーズの掘り起こしと担い手の発掘

■ 進行役

高橋 望 (公財) さわやか福祉財団

■ 登壇者

奥田 久美子 庄原市第2層SC

斉藤 節子 南アルプス市第1層SC

斎藤 主税 村上市第2層SC

平野 歌織 長野市第2層SC

住民主体の活動を展開するには、**ニーズの把握と担い手の掘り起こし**が必須であるところ。その効果的な手法を多様な事例に学びつつ、**基本に立ち返って考える**
(大阪 分科会38,39)

分科会
7

地縁の助け合い活動を
活性化するには？



■ 進行役
高橋 良太
(社福) 全国社会福祉協議会地域福祉部長

■ 登壇者
河村 侑乃 九戸村保健福祉課
毎田 雄一 下ノ江ささえあい隊 活動企画コーディネーター
大嶋 照伸 ふじくらたすけあいの会代表
吉野 義道 砂町よっちゃん家代表

「**ご近所の壁**」(身近な地域であるからこそ本音が言いづらい)がある中で、地縁の助け合いを展開するためにどのように「**真のニーズ**」を把握しているか多様な実例から考える
(大阪 分科会7) (神奈川 分科会7)

分科会
9

有償(謝礼付き)ボランティア活動の
理解をどう広めるか



■ 進行役
中村 順子
(認定特非) コミュニティ・サポートセンター神戸理事長

■ 登壇者
渡邊 典子 (特非) ほっとあい副理事長
松岡 喜久子 (特非) インクルひろば代表
伊藤 喜代美 若木台3区サポートの会会長
潮 ハルミ 若木台3区サポートの会運営委員
中村 秀貴 (社福) 太良町社会福祉協議会

多様な助け合いの手法から有償ボランティアを選択した理由を問うことによって、**有償ボランティアの特徴を正しく把握し、さらなる広がりを目指す**
(大阪 分科会9) (神奈川 分科会9)

分科会
11

助け合い活動に対する
行政の後方支援のあり方



■ 進行役
服部 真治
医療経済研究機構
主席研究員



■ アドバイザー
原 勝則
元厚生労働審議官・
老健局長

■ 登壇者
藤本 勇樹 名張市地域経営室地域マネージャー
石山 裕子 大川市健康課
大阪市地域包括ケア推進課長

助け合い活動は住民のニーズに基づいて自由に行われるもの。**制度を多角的にとらえ、柔軟に活用している市町村の後方支援の具体例と共に、活動普及に向けた支援のあり方**を考える
(大阪 分科会11) (神奈川 分科会11)

分科会
8

共生型常設型居場所をどう広げるか

■ 進行役

鶴山 芳子 (公財) さわやか福祉財団理事

■ 登壇者

河田 圭子 地域の茶の間創設者
稲葉 ゆり子 たすけあい遠州代表、高南の居場所あえるもん副代表
浦田 愛 (社福) 文京区社会福祉協議会
田中 康裕 lbasho Japan 代表、
千里ニュータウン研究・情報センター事務局長

共感をつくり出す「いつでも誰でも型」居場所を、プライバシーに踏み込まない交流の場から、**誰もが「助けて」と語り合える交流の場**に発展させるにはどうしたらよいかを考える
(大阪 分科会8,46) (神奈川 分科会8)

分科会
10

自動車による移動支援をどう広げるか

(企画・協力：(特非) 全国移動サービスネットワーク)



■ 進行役
河崎 民子
(特非) 全国移動サービスネットワーク副理事長

■ 登壇者
加藤 由紀子 (特非) ふれあい天童理事長
岸 英二 厚生労働省老健局地域づくり推進室課長補佐
調整中

各地でますますニーズが高まってきている移動支援。その広げ方を、各地の実践例を参考にしつつ、**助け合いの気持ちから始める**という原点から探っていく
(大阪 分科会10) (神奈川 分科会10)

分科会
12

都道府県は助け合いによる
生活支援活動を広めるために
何をすべきか



■ 進行役
岩名 礼介
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
共生・社会政策部長、主席研究員

■ 登壇者
岩手県担当者
埼玉県担当者
山梨県担当者
大阪府担当者

市町村が住民主体の生活支援を適切に推進するための方策を、地域共生社会創造のための他の方策と連携しつつ進めるよう都道府県が支援するためには、どんな方法があるのか
(大阪 分科会31) (神奈川 分科会28)

分科会
13

医療・介護サービスと
生活支援の助け合い活動との
ネットワークをどうつくるか



■ 進行役
中村 秀一
(一社) 医療介護福祉政策研究フォーラム理事長、
国際医療福祉大学大学院教授

■ 登壇者
秋山 正子 暮らしの保健室長、(認定特非) マギーズ東京センター長
江田 佳子 佐々町多世代包括支援センター参事
竹本 匡吾 (社福) 地域でくらす会理事・鳥取拠点事業長
三和 清明 (特非) 寝屋川あいの会理事長、寝屋川市第1層SC

軽度の頃から最終段階まで、**地域で一貫したケア**を行うために、専門職と助け合い活動者はどのように連携(ネットワーク)していけばよいかを、実践例をもとに考えたい
(大阪 分科会14) (神奈川 分科会12)

分科会
14

新規 これからの20年、日本は
様々な冷たさを克服して、あたたかい
人間開花社会をつくることのできるか



■ 進行役
堀田 聡子
慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授

■ 登壇者
稲葉 ゆり子 たすけあい遠州代表、高南の居場所あえるもん副代表
田中 羊子 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ) 連合会
センター事業団理事長
牧野 篤 東京大学大学院教育学研究科教授
柳澤 大輔 面白法人カヤック代表取締役CEO

グローバル化による格差拡大により孤独・孤立、差別や偏見、生きづらさが増幅する中、すべての個人がそれぞれに持つ**資質や能力を発揮し、いきがいを持って生きる人間開花社会をいかに形成するか**を多様な視点から考える

分科会
15

ご近所の助け合いが
自然に行われる地域をどうつくるか



■ 進行役
池田 昌弘
(特非) 全国コミュニティライフサポートセンター理事長

■ 登壇者
河田 瑳子 地域の茶の間創設者
木原 孝久 住民流福祉総合研究所所長
近藤 克則 千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門教授
酒井 保 ご近所福祉クリエイション主宰 ご近所クリエイター

ご近所の自然な助け合いがどのように受け継がれ、継続され、広がってきたのか。**実態としてある助け合いを、さらに広めるにはどうすればよいか**を考える
(大阪 分科会41)

分科会
16

認知症の人が地域の人々と
ともに生きる地域をどうつくるか



■ 進行役
新田 國夫
(一社) 全国在宅療養支援医協会会長、
(一社) 日本在宅ケアアライアンス理事長

■ 登壇者
杉山 孝博 川崎幸クリニック院長、
認知症の人と家族の会副代表・神奈川県支部代表
長田 米作 とうきょう認知症希望大使
野辺 薫 練馬区高齢者支援課
谷口 泰之 御坊市介護福祉課、認知症地域支援推進員
菱谷 文彦 厚生労働省老健局認知症総合戦略企画官・
地域づくり推進室長

認知症者が地域で暮らす環境を整え、**本人らしく生きていくための地域で支える具体策**を探る
(大阪 分科会21) (神奈川 分科会18)

分科会
17

市民後見人による後見活動と
生活支援活動はどう連携するのが
望ましいか



■ 進行役
大森 彌
東京大学名誉教授

■ 登壇者
梶野 友樹 内閣官房内閣参事官(厚生労働省新型コロナ本部参事官)
今井 友乃 (特非) 知多地域成年後見センター理事長
越智 邦子 (認定特非) 東葛市民後見人の会理事・流山支部長
小池 信行 山田二郎法律事務所 弁護士
森山 彰 (特非) 高齢者・障害者安心サポートネット理事長

国においても第二期成年後見制度利用促進基本計画が始まる中、**本人の身上保護中心の市民後見をどう広めるか**について、地域共生社会の実現の観点も加え多角的に検討する
(大阪 分科会24) (神奈川 分科会19)

分科会
18

企業OBに助け合いによる生活支援活動への参加をうながすにはどうすればよいか



■ 進行役
中村 順子
(認定特非) コミュニティ・サポートセンター神戸理事長



■ アドバイザー
奥山 俊一
(認定特非) プラチナ・ギルドの会理事長

■ 登壇者

勝部 麗子 (社福) 豊中市社会福祉協議会事務局長
小暮 航 (特非) ワークスコープ、広島市「協同労働」プラットフォーム統括コーディネーター
渋谷 雅人 (認定特非) 全国子ども食堂支援センター・むすびプロジェクトリーダー、(一社) レガシーギフト協会事務局長次長
中村 能彦 すまいるワーク事務局長

地域とのつながりに最も縁遠かった企業OB層が地域で動き出せば、日本社会は大きく変わる。生活支援活動を通じたいきがい創出を目指し、働きかけの効果的な方策をさらに探る
(大阪 分科会25) (神奈川 分科会21)

分科会
20

在宅での人生の最終章の過ごし方及び看取りのあり方



■ 進行役
花戸 貴司
東近江市永源寺診療所所長

■ 登壇者

土島 智幸 (医) 稲生会理事長
中村 秀一 (一社) 医療介護福祉政策研究フォーラム理事長、国際医療福祉大学大学院教授
樋口 恵子 (特非) 高齢社会をよくする女性の会理事長

今回は本人の満足度の高い在宅での看取りをどう全国各地に広げるかを考える
(大阪 分科会54) (神奈川 分科会34)

分科会
22

社会福祉法人の地域共生への貢献と認定介護福祉士の役割



■ 進行役
諏訪 徹
日本大学文理学部社会福祉学科教授



■ アドバイザー
和田 敏明
ルーテル学院大学名誉教授

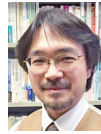
■ 登壇者

佐藤 和幸 (社福) 龍鳳法人本部経営本部長
田中 栄 (株) フォレスト代表取締役
徳田 美紀 (社福) リガレ暮らしの架け橋
保岡 伸聡 (社福) あさがお福祉会CEO法人統括施設長

地域との連携を進める「社会福祉法人」と地域を視界に入れ活躍する「認定介護福祉士」は、現場で何を思いどう動いたのか。実践者の経験談をもとに地域共生の可能性を考える
(大阪 分科会29、48)

分科会
19

防災活動をどう助け合い活動に結び付けるか



■ 進行役
菱沼 幹男
日本社会事業大学社会福祉学部准教授

■ 登壇者

蟻坂 隆 石巻市民生委員児童委員協議会副会長
高橋 泰 石巻市第2層SC
細貝 光義 (特非) 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会会長
小林 孝 コープ南砂助け合いの会事務局長/統括防火管理者
沢里 正雄 コープ南砂防災委員会本部長/助け合いの会副代表
高村 重則 田島町自治会事務局長

防災活動と助け合い活動はどう結び付くのか。助け合いと防災とのつながりのあり方、重要性を様々な実例から探る
(大阪 分科会42)

分科会
21

ケアプランに生活支援の助け合い活動及び本人のいきがい活動をどう取り入れるか



■ 進行役
田中 滋
埼玉県立大学理事長、慶應義塾大学名誉教授

■ 登壇者

砂塚 一美 柏崎市第1層SC
水上 直彦 (一社) 日本介護支援専門員協会 介護保険制度・報酬委員会委員長
江田 佳子 佐々町多世代包括支援センター参事
川部 勝一 厚生労働省老健局総務課課長補佐

地域でその人らしく生きていく視点を持ち、多様なサービスを包括的に組み入れたケアプランを立てるといふ考え方をどう広めていくか。具体的な普及方策を考える
(大阪 分科会15) (神奈川 分科会13)

分科会
23

大都市部における企業とも連携した新地域支援事業の進め方



■ 進行役
服部 真治
医療経済研究機構主席研究員

■ 登壇者

辻 哲夫 東京大学高齢社会総合研究機構・未来ビジョン研究センター客員研究員
蒲原 基道 日本社会事業大学専門職大学院客員教授、元厚生労働事務次官
加藤 三奈 港区第1層SC
丸岡 友美 神戸市介護保険課
鷲谷 僚子 ネスレ日本(株) コーポレートコミュニケーション室

大都市部では助け合いを面で広げていくことは難しく、企業など多様な社会資源を活用しながら、どう住民が参加した活動を広げていけるのか、大都市ならではの方策を考える
(大阪 分科会43) (神奈川 分科会32)

第2部パネル

分科会 24

人口が少ない自治体における 助け合いによる生活支援に関する 課題と対応策は何か



進行役 石井 義恭 白杵市地域力創生課課長代理

登壇者 調整中

小規模だからそのヒト、モノ、カネ、情報の活用を柔軟に考え、住民と地域の力を最大限に活かす流れをいかにしてつくるかを探る (大阪 分科会32) (神奈川 分科会33)

分科会 25

海外では地域の助け合い活動で どれだけ高齢者の生活を支えているか (企画・協力：医療経済研究機構 国際長寿センター (日本))



進行役 大上 真一 医療経済研究機構 国際長寿センター (日本) アドバイザー

登壇者

小野 太一 政策研究大学院大学教授 渡邊 大輔 成蹊大学文学部教授 イギリスの研究者、実践者 (予定)

高齢者本人の生き方や能力を活かすウェルビーイングな暮らしを地域でどう実現しているかについて、ドイツとイギリスの事例を中心に紹介し、日本でのあり方を考える (大阪 分科会51) (神奈川 分科会24)

第3部パネル

分科会 26

新規 住民運動の推進拠点をつくる 地方自治体

進行役 堀田 力 (公財) さわか福祉財団 会長



アドバイザー 浅野 史郎 (公社) 日本フィランソロビー協会会長

登壇者

小田 和夫 (社福) 宮津市社会福祉協議会会長 松岡 武司 倉敷市第1層SC 鷹尾 剛 (特非) 志免地域支え合い互助基金 能美市担当者

地域共生社会の推進は、地域の活力を高め、住民の幸せをつくり出す。そのための住民運動を支援する仕組みを全国の事例から探る

分科会 27

新規 企業のSDGs ~地域共生社会への貢献~



進行役 高橋 陽子 (公社) 日本フィランソロビー協会理事長



アドバイザー 小野 晶子 (独) 労働政策研究・研修機構 雇用構造と政策部門副統括研究員

登壇者

鈴木 由知 東京海上日動火災保険 (株) 営業企画部部長兼地方創生・健康経営室長 近久 啓太 大和ハウス工業 (株) サステナビリティ企画部長 長瀬 晴信 ヤマト運輸 (株) 地域共創部 中野 伊津子 大阪ガス (株) 総務部管理チーム

SDGsの活動として、企業は地域共生社会づくりにどう貢献するか。多彩な実践事例をもとに、社内での周知方法と社外での連携方法を探る

分科会 28

新規 労働組合・非営利団体のSDGs ~地域共生社会への貢献~



進行役 村田 幸子 福祉ジャーナリスト



アドバイザー 中村 天江 (公財) 連合総合生活開発研究所主幹研究員

登壇者

小田原 弘 日本郵政グループ労働組合 中央執行委員総合政策部長 畠山 薫 日本労働組合総連合会総合運動推進局運動企画局局長 比嘉 政浩 (一社) 日本協同組合連携機構代表理事専務 前田 昌宏 日本生活協同組合連合会地域コミュニティーグループ マネージャー

SDGsの活動として、労働組合や協同組合はどう地域課題に取り組むか。多様な取り組み事例から、その具体的な手法を学ぶ

分科会 29

新規 学生・生徒がボランティア活動を 進展させる方策



進行役 辻村 哲夫 (公財) 学習情報研究センター理事長

登壇者

興梠 寛 アクティブ・シティズンシップ研究所代表、日本ボランティア学習協会代表理事 齊藤 ゆか 神奈川大学学長補佐、人間科学部教授 島田 京子 「エクセレントNPO」をめざそう市民会議共同代表、(一社) TAKUMI-Art du Japon 理事 嶋野 道弘 元文教大学教育学部教授

地域共生社会の構築には学生の参加も重要であるところ。学生ボランティアを地域で受け入れる方法など、学生の地域活動参加の推進方策を考える

分科会
30

勤労者の助け合い活動参加を
どうながすか

■ 進行役
澤 美杉
(公財) さわか福社財団



■ アドバイザー
蒲原 基道
日本社会事業大学専門
職大学院客員教授、
元厚生労働事務次官

■ 登壇者
桑田 竜一郎 但陽信用金庫理事
嵯峨 生馬 (認定特非) サービスグラント代表理事
野中 久美子 (地独) 東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム研究員
真島 康誉 まごのて代表
八王子市高齢者いきいき課担当者

勤労者が地域を支える助け合い活動に参加するのは夢物語なのか。2年に及ぶ研究成果と貴重な実践事例を披露し、この動きを**全国展開するための方策**を議論する
(**神奈川** 分科会22)

分科会
31

心身機能が低下しても持てる能力を
生かして社会参加する方法とは

(企画・協力：(一社) シニア社会学会)



■ 進行役
澤岡 詩野
(公財) ダイヤ高齢社
会研究財団主任研究員



■ アドバイザー
袖井 孝子
(一社) シニア社会学
会会長、お茶の水女子
大学名誉教授

■ 登壇者
前田 隆行 DAYS BLG! 代表
斎藤 縣三 (特非) わっぱの会理事長
渥美 京子 (一社) コミュニティネットワーク協会理事長

神奈川サミットでは高齢者に特化したが高齢者には年齢や状態にかかわらず、**誰もが持てる能力を発揮して社会参加する方法**を多様な事例を通じて紹介する
(**神奈川** 分科会27)

分科会
32

子どもと高齢者の交流や助け合いを
どう広げるか

(企画・協力：にっぽん子ども・子育て応援団)



■ 進行役
奥山 千鶴子
(特非) 子育てひろば全国連絡協議会理事長

■ 登壇者
松田 妙子 (特非) せたがや子育てネット代表理事
田中 博子 (特非) ゆうゆうクラブ理事長
井出崎 小百合 (特非) もりのこえん代表理事

地域の子どものコミュニティで育てている多様な事例から、**子どもの健全な成長や高齢者のいきがいを生み出す地域の力**を確認したい
(**大阪** 分科会18) (**神奈川** 分科会17)

分科会
33

新規 乳幼児期に子どもの共感力を育てる
ともあそび



■ 進行役
藤原 佳典
(地独) 東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム研究部長

■ 登壇者
内田 伸子 IPU環太平洋大学教授、お茶の水女子大学名誉教授
杉 啓以子 (社福) 江東園TQM経営企画部本部長
田中 千晶 東京家政学院大学人間栄養学部教授
西野 博之 (認定特非) フリースペースたまりば理事長

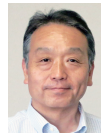
子どもの**共感力**を育み、高齢者に**いきがい**をもたらす「ともあそび」の意義を理解し、「ともあそび」を**広める活動**にどう協力するかを考える

分科会
34

地域は、地域で孤立しがちな人と
どうつながるか



■ 進行役
古都 賢一
(社福) 全国社会福祉
協議会副会長



■ アドバイザー
奥田 知志
(認定特非) 抱樸
理事長

■ 登壇者
大空 幸星 (特非) あなたのいばしょ理事長
鈴木 訪子 (認定特非) おもちゃの図書館全国連絡会理事長、
(一社) 子ども村ホッとステーション理事
向谷地 生良 (社福) 浦河べてるの家理事長

神奈川サミットでの「まず地域に目を向ける」をさらに深めるため、お互いが人として普通の関係性を築くことができる**包摂社会に進む道すじ**をじっくり探っていく
(**大阪** 分科会20、22、23) (**神奈川** 分科会20)

分科会
35

新規 外国人との共生



■ 進行役
毛受 敏浩
(公財) 日本国際交流
センター執行理事



■ アドバイザー
是川 夕
国立社会保障・人口問
題研究所国際関係部長

■ 登壇者
小林 普子 (特非) みんなのおうち代表理事
山野上 隆史 (公財) とよなか国際交流協会常務理事
調整中

地域共生社会の実現に向けて、外国人との共生は重要な視点の1つ。外国人を地域で受け入れ、**共生していくための方策**を、様々な事例から探る

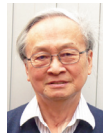
第3部パネル

分科会 36

個人の住宅を地域に開くには、どうすればよいか



進行役
高橋 紘士
東京通信大学名誉教授、
(一社)高齢者住宅協会
顧問、(一社)全国ホーム
ホスピス協会理事



アドバイザー
西村 周三
医療経済研究機構特別
相談役、京都先端科学
大学経済経営学部教授

登壇者
宇津崎 光代 (一社)日本住育協会理事長、
(株)ミセスリビング代表取締役

三浦 研 京都大学大学院工学研究科教授

調整中

戸建住宅の地域への開き方を検討し、助け合いを創り出す器としての住まいの役割を見直した神奈川サミットに続き、さらに広く「共生の住まいのあり方」を具体的に探る

(**神奈川** 分科会14)

分科会 37

日本における寄付文化を進展させる方策



進行役
早瀬 昇
(社福)大阪ボランティア協会理事長

登壇者
鵜尾 雅隆 (認定特非)日本ファンドレイジング協会代表理事
見年代 瞳 (特非)やませデザイン会議事務局次長
矢野 正広 (認定特非)とちぎボランティアネットワーク理事長

日本に個人寄付の文化をなじませるために**最近普及しつつある様々なアイデア**を紹介し、地方再生のための住民活動の支援方策を考えていく

(**大阪** 分科会17)

ポスターセッションのご案内



会場展示と Web でのポスター展示を行います。
全国での取り組みを知ると共に、会場ではポスター出展者とのコミュニケーションを深めることができる機会です。

◎総合事業や地域共生活動の最新事例

生活支援コーディネーターや協議体、自治体、社会福祉協議会、地域包括支援センター等関係者が、住民の方々と助け合いの地域づくりを進めていく中で、「全国に紹介したい」「おすすめしたい・自慢したい」という活動をポスターにまとめて発表していただけます。

東京サミットでは、広く地域共生のための活動を行っている団体からも出展していただけます。

テーマ(カテゴリー)は、以下の通りです。

- (1) 総合事業に定める生活支援の助け合いに関する活動
 - A コロナ禍の中における助け合い活動
 - B 体制整備に関するもの
 - C 住民のニーズ把握及び担い手の掘り起こしに関するもの
 - D 助け合い活動の創出に関するもの
 - E 都道府県の支援
- その他 上記のカテゴリーにあてはまらない助け合いに関する活動

- (2) 上記(1)記載の活動以外の地域共生に関する活動

◎参加者全員で「いいね！」投票を実施

事前資料『助け合い大全'22 ポスター編』、Web 展示、会場展示のポスターをご覧いただき、「いいね！」と思ったポスターに投票していただけます。投票結果は、2日目最後の全体発表会でご紹介します。こちらも楽しみにしてください。

◎ポスターで取り組みをご紹介しませんか？

ぜひ、皆様の地域での活動を全国にアピールしてください。

応募期間 4月8日(金)～5月31日(火)

応募ポスターは、事前資料『ポスター編』へ掲載及び Web 上で展示いたします。会場での展示は、会場の都合上、展示数を調整させていただく場合がございます。詳しくは、当財団ホームページ内にある東京サミット「ポスターセッション出展募集のご案内」をご覧ください。

ロボット介護機器に関する特別展示を行います

在宅介護でのロボット介護機器の活用が、助け合い活動の一層の広がりや介護人材不足の鍵！助け合いの現場で役に立つと思われるロボット介護機器の展示を行います。

お申し込みについて

- 「いきがい・助け合いサミット in 東京」は、会場参加とオンラインによるライブ配信を併用して開催します。
- 会場は新型コロナウイルス感染防止のため、消毒、換気、飛沫防止、ソーシャルディスタンスの確保などの対策を講じます。
- 新型コロナウイルスの感染状況により、すべてのプログラムをオンラインによるライブ配信とする場合がありますので、あらかじめご了承ください。開催形式は7月25日（月）に最終決定します。
- 12ページからの「お申し込みのご案内」をご覧ください。
- 終了後（11月頃）に全体シンポジウムとすべての分科会のオンデマンド配信を行います。会場参加、オンライン視聴を問わず、参加された皆様はすべてのプログラムの視聴が可能となります。

対象：どなたでもご参加できます。
当日の参加受付はいたしませんので、事前のお申し込みをお願いいたします。
定員になり次第締め切りとさせていただきます。

定員：会場参加 1,500名 オンライン視聴 3,000名
大交流会 500名 ※大交流会の開催可否は、
7月1日（金）に判断いたします。

参加費：資料代として2,000円（会場参加、オンライン視聴共に参加費を兼ねたお1人ずつの金額です）
大交流会は、別途参加費として3,000円

参加申し込み：WebまたはFAXによりお申し込みください。
Webによるお申し込みが優先となります。
Web 東京サミット特設ページからお申し込みください（最終ページにURLとQRコードを掲載）。さわやか福祉財団のホームページからもお入りいただけます。
FAX 同封の専用申し込み用紙に必要事項をご記入のうえ、(株)JTB横浜支店「いきがい・助け合いサミット in 東京」受付デスクまでお送りください（12～15ページをご覧ください）。

※全面オンライン視聴による開催となる可能性がありますので、FAXによるお申し込みの場合でも必ず参加申し込み者全員のメールアドレスをご記入ください。

※FAXによるお申し込みの場合、募集受付窓口によるシステムへの登録をもって受付完了となります。集中した場合は登録完了までにお日にちを要する場合がありますことをご承知ください。

昼食：9月2日（金）昼食のお申し込みとなります。
ご希望される方は、お申し込みの際に、和食（人形町今半・お茶付）、中華（崎陽軒・お茶付）のいずれかをご選択ください。いずれも1,000円です。

注意 会場では、ご自宅からのお弁当持ち込みは禁止されています。会場付近に食事の施設はございますが、当日は混雑や移動に時間がかかることが予想されますので、昼食は事前のお申し込みをお勧めいたします。

● 分科会のお申し込みについて

① 会場参加の場合

分科会は、基本的に出入り自由ですが、事前に分科会のご希望をいただいた方を優先いたします。第1部、第2部、第3部パネルの希望する各分科会につき、それぞれ第3希望までお選びいただき、お早めにお申し込みください。分科会のお申し込み状況等は、当財団ホームページ等でお知らせします。なお、分科会ごとに、定員になるまで第1希望の方をお申し込み順に登録していきます。第1希望の分科会が定員になった場合には第2希望の分科会へ、第2希望の分科会も定員になった場合は第3希望へのご登録となります。第3希望まで

いずれもご希望に沿えない場合には「いきがい・助け合いサミット in 東京」受付デスク担当からご連絡いたします。ご参加いただく分科会は参加証（ネームカード）に表示します。

② オンライン視聴の場合

①と同様の手順により決定した分科会をご視聴できます。
オンライン視聴を申し込まれた方には、オープニングアトラクション～全体シンポジウム、全体発表会、視聴が決定した分科会ごとのURLを登録メール宛にお送りします（オンライン視聴の方にもネームカードをお送りします）。

● 大交流会のお申し込みについて

新型コロナウイルス感染防止策を講じますので、一般申し込みは500名を定員とします。開催の可否は、7月1日（金）に判断し、当財団ホームページでの告知のほか、参加登録済みの方にはメール等により改めてご連絡いたします。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

● 宿泊のお申し込みについて

12ページからの「お申し込みのご案内」をご覧ください。

申し込み締め切り：2022年8月1日（月）

参加受付が完了した方には、事前資料、参加証等をお送りいたします。会場参加の方は、当日は参加証をご持参ください。

※開催の形式は7月25日（月）に最終決定しご連絡いたします。

全面オンラインによるライブ配信とする際には、会場参加を申し込まれた方もオンラインによる視聴となりますので、ご了承ください。

※当日は、ご希望により無料託児所を設けます。

また、車椅子、手話通訳等の配慮が必要な方も事前にお申し出いただけますようお願いいたします。

● 取り消しについて

参加申し込み：事前資料の発送の都合上、取り消し期限は8月8日（月）とさせていただきます。それ以降の取り消しに伴う資料代の払い戻しはできかねますのでご了承ください。その場合は、資料のご送付で対応させていただきます。

大交流会 昼食：主催者判断による大交流会の中止及び全面オンライン視聴による開催に変更する場合以外の取り消し期限は、8月8日（月）とさせていただきます。それ以降の取り消しの場合、代金のご返金はいたしかねますのでご了承ください。

宿泊：各宿泊先との契約によります。

*すべて税込みの金額となります。 11

いきがい・助け合いサミット in 東京

【お申し込みのご案内】

2022年9月1日(木)から2日(金)の2日間、グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミールにて、「いきがい・助け合いサミット in 東京」が開催されます。ご参加者様方の東京サミット参加、分科会、昼食、大交流会、宿泊プラン等の受付を(株)JTB 横浜支店で担当させていただきます。当ご案内をご一読いただき、お申し込みください。本サミットは、会場参加・ライブ配信のハイブリット開催となります。なお、7月25日(月)の最終決定により全面オンライン視聴になる可能性がございます。

1. サミット参加について

- 定員：会場参加 1,500名 / オンライン視聴 3,000名
- サミット参加費：お1人様あたり2,000円(資料代として)
- ※定員になり次第締切となります。

2. 分科会について

- 第3希望までお選びいただき、お早めにお申し込みください。
- ※定員となった分科会へのご参加はできないため、ご希望に沿えない場合もございます。特にご希望の分科会がある場合は、お早めにお申し込みください。
- ※FAXでお申し込みの場合は、受付デスクで処理されるまでの時間差により、ご希望の分科会が定員になりお申し込みできない可能性がある点ご了承ください。

3. 昼食について

- 提供日：2022年9月2日(金)
- 種類：和食(人形町今半・お茶付)、中華(崎陽軒・お茶付)
- 料金：いずれも1,000円(税込)
- ※「昼食引換券」は参加証と一緒に郵送いたします。当日「昼食引換券」をお持ちになり、指定の場所にてお引替えください。
- ※会場では、ご自宅からのお弁当持ち込みは禁止されています。会場付近に食事の施設はございますが、当日は混雑や移動に時間がかかることが予想されますので、昼食は事前のお申し込みをお勧めいたします。

4. 大交流会について

- 開催日時：2022年9月1日(木) 18:00~19:00
- 開催場所：グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール
- 定員：500名
- 大交流会参加費：お1人様あたり3,000円(税込)
- ※定員になり次第締切となります。
- ※新型コロナウイルス感染状況を踏まえて検討し、7月1日(金)に開催可否を判断いたします。

5. お申し込み方法のご案内 (Web申し込み または FAX申し込みの2パターン)

「いきがい・助け合いサミット in 東京」への参加、分科会、昼食、大交流会、宿泊プランにつきましては事前申し込みが必要となります。今回もオンライン視聴での参加(ライブ配信)が可能となり、こちらも事前申し込みが必要です。下記内容をご確認の上、東京サミット特設ページ内のお申し込みボタン(Web申し込み)よりお申し込みください。また、FAX申し込みも可能ですが、お客様の利便性の観点からWeb申し込みを推奨しております。FAXでのお申し込みは受付デスクがシステムに入力を行った時点で申し込みが完了となります。※車椅子、手話通訳、託児所などの配慮が必要な方は、申し込みの際にお申し出いただきますようお願いいたします。

共通のご案内

- 申し込み受付開始：2022年5月16日(月)
- 申し込み受付締切：2022年8月1日(月) ※定員になり次第締切とさせていただきますのでご了承ください。
- お支払い期間：2022年7月1日(金)～8月8日(月)
- ※大交流会の開催可否によって申し込み金額が異なるため、お支払い手続きは開催の確定日(7月1日(金))以降にお願いいたします。

Web申し込み

- 1) 5月16日(月)以降、下記の東京サミット特設ページよりお手続きをお願いいたします。
- 2) 「お申し込みボタン」より進んでいただき、【はじめてご利用される方】より、IDとパスワードを各自設定していただき、参加者情報とご希望の参加内容をご登録ください。
- 3) 大交流会の開催可否は7月1日(金)に判断されます。申し込み受付開始時よりご登録は可能です。

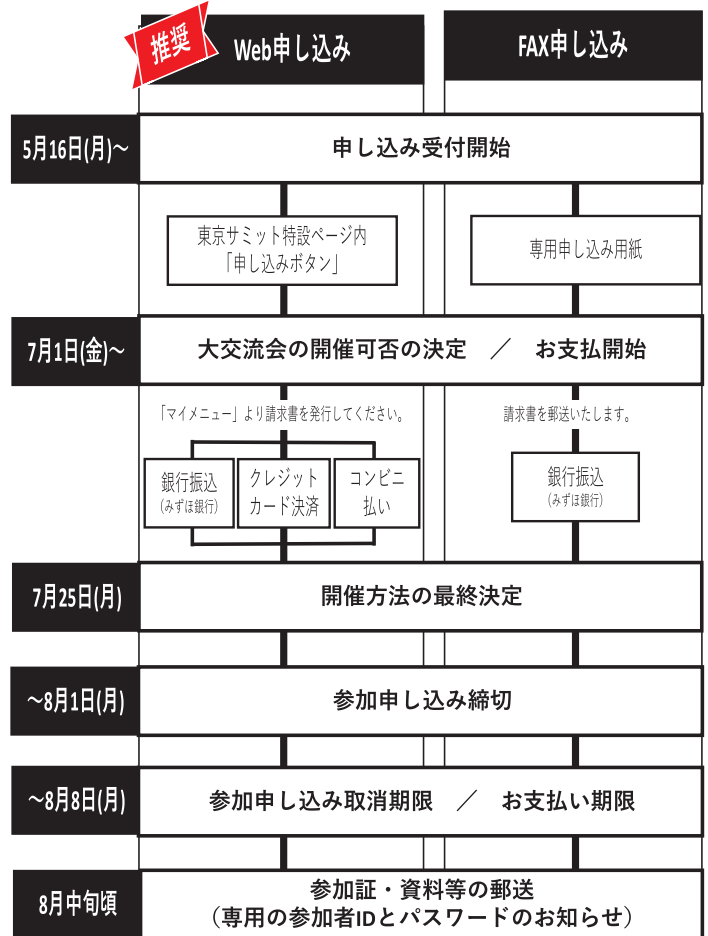
<東京サミット特設ページ> <https://summit.sawayakazaidan.or.jp>



FAX申し込み

- Web環境がない方は、専用の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、(株)JTB横浜支店「いきがい・助け合いサミット in 東京受付デスク」までお送りください。FAX申し込みの場合、受付デスクでの受信から登録処理までの時差が生じます。席数が限定されている分科会は、登録処理時の空席状況によりご希望通りに受付ができない場合もございますので、リアルタイムで登録が可能なWeb申し込みを極力ご利用いただく事を推奨いたします。FAXでのお申し込みでも、オンライン視聴でのご参加有無を問わず全てのご参加者のメールアドレスの記入が必須となります。
- FAX送信の際には個人情報保護の観点から、番号をご確認の上、お間違いのないよう送信をお願いいたします。送信後はお手数ですが、着信のご確認をお願いいたします。
- FAX申し込みの場合、分科会については第3希望まで、宿泊プランについては第2希望まで必ずご記入ください。分科会・宿泊共に、空き状況によりご希望外の内容をご案内させていただくこともございますので、予めご了承ください。

<お申し込みの流れ>



6. お支払い方法

Web申し込み

「マイメニュー」にログインし、お支払い方法を選択の上、手続きをお済ませください。

お支払い方法 ⇒ 銀行振込 (みずほ銀行) / クレジットカード決済 / コンビニ払い のいずれか

お支払い期間 ⇒ 7月1日(金)~8月8日(月)

※コンビニ払いの場合はお支払い手続き後、10日以内にお済ませください。万が一期限を過ぎた場合は、取得された「支払受付番号」「払込票」は無効となります。再度手続きをやり直してください。

FAX申し込み

7月1日(金)以降、請求書を郵送いたします。書類発送まで2週間程度のお時間を頂戴いたします。

※FAX申し込みの場合のご入金方法は「みずほ銀行への振込」に限定させていただきます。

※サミット参加費、昼食代、大交流会参加費は、(株)JTB コミュニケーションデザインより委託を受け、(株)JTB 横浜支店が受付・集金業務を代行いたします。

7. 参加証について

■参加証は、8月中旬頃に郵送いたします。

■参加証には、専用の参加者IDとパスワードが記載されていますので、大切に保管ください(別途電子メールでもお知らせいたします)。

■プログラムのオンライン視聴だけでなく、ポスター展や当日資料の閲覧などにもご使用いただきますので、会場参加の方は、当日忘れずにご持参ください。

8. 宿泊プランのご案内

■設定日：2022年8月31日(水) / 9月1日(木) / 9月2日(金) ※3泊

■旅行期間：上記出発日から1泊2日~3泊4日

■旅行代金(宿泊プラン代金)：朝食、サービス料及び消費税、宿泊税込みのお1名様あたりの代金です。

■ご予約は先着順にて承ります。WebまたはFAX(専用申し込み用紙)にて8月1日(月)までにお申し込みください。

■ご希望のホテルが満室の場合は、他のホテルをご案内させていただきます。予めご了承ください。

■添乗員：この旅行では、添乗員は同行致しません。

■最少催行人員：1名様

■宿泊プランの行程

日次	行程	食事条件
1	自宅または前泊または各地 → (交通はお客様負担) → 各宿泊施設 宿泊地：都内	朝× 昼× 夕×
2~4	各宿泊施設 → (交通はお客様負担) → 自宅または後泊または各地	朝○(一部×) 昼× 夕×

宿泊エリア	宿泊施設名	最寄駅	会場アクセス	客室タイプ	ご利用人数	ご旅行代金 (1泊お1名様)	申込記号
会場周辺 (品川駅周辺)	品川プリンスホテル (メインタワー)	JR 品川駅 (高輪口) 徒歩約2分	徒歩約10分	ツイン (21㎡)	1名利用	¥21,300	1-A
					2名利用	¥11,550	1-B
	品川プリンスホテル (イーストタワー)	JR 品川駅 (高輪口) 徒歩約2分	徒歩約10分	シングル (13.2㎡)	1名利用	¥14,400	2-A
					品川東武ホテル 【全室禁煙】	JR 品川駅 (高輪口) 徒歩約7分	徒歩約5分
	ツイン (21㎡)	1名利用	¥15,600	3-B			
	2名利用	¥9,350	3-C				
都シティ東京高輪 【全室禁煙】	JR 品川駅 (高輪口) 徒歩約7分	徒歩約8分	ダブル (19㎡)	1名利用	¥14,400	4-A	
田町・浜松町エリア	相鉄フレッサイン東京田町	JR 田町駅 徒歩約4分	JR 山手線利用 約25分	ダブル (13㎡)	1名利用	¥10,300	5-A
	ホテルグレイスリー田町	JR 田町駅 徒歩約4分	JR 山手線利用 約25分	シングル (15㎡)	1名利用	¥11,550	6-A
	チサンホテル浜松町	JR 浜松町 徒歩約8分	JR 山手線利用 約35分	シングル (11.8㎡)	1名利用	¥10,100	7-A
				ツイン (13.6㎡)	1名利用	¥11,200	7-B
	2名利用	¥7,900	7-C				
	京王プレッソイン浜松町 (無料朝食付)	JR 浜松町 徒歩約8分	JR 山手線利用 約35分	シングル (12㎡)	1名利用	¥8,250	8-A
相鉄フレッサイン浜松町大門	JR 浜松町 徒歩約8分	JR 山手線利用 約35分	ダブル (11㎡)	1名利用	¥11,100	9-A	

※禁煙・喫煙ルームの希望を承りますが、ご希望に添えない場合もございますので、予めご了承ください。

※当日チェックインの際は、各宿泊施設のフロントにてお名前をお申し出ください。

※朝食が不要の場合でも特別設定代金のため、ご返金はできません。

※個人会計及びこれに伴うサービス料金と諸税は各自ご精算願います。

9. 変更・取消について

Web お申し込みの場合、「マイメニュー」にログインし、画面の手順に沿って変更内容の入力をお願いいたします。
FAX お申し込みの場合は変更内容を FAX 用紙にご記入の上、ご送信ください。お電話による変更・取消はお受けいたしません。
※Web お申し込み受付締切後の変更・取消につきましては、メール・FAX にてご連絡をお願いいたします。

E-mail : jtb_convention@jtb.com

FAX : 045-316-5701

※取消日より所定の取消料を申し受けます。(下記の表を参照)

※取消日基準日はメールの受信日または FAX 受信処理日といたします。かつ受付時間内(平日 9:30~17:30)に受信したものを基準といたします。また、営業時間後に受信した分につきましては、受信日翌営業日の取消扱いになりますので、ご了承ください。

※旅行開始後の取消連絡はお電話にてご連絡願います。

※ご入金後、変更・取消にて生じた取消料を差し引いた金額に残額がある場合には、サミット終了後 30 日以内に指定口座に振込(ご返金)いたします。

【取消料】

■サミット参加費(資料代)・昼食代・大交流会参加費

取消日	取消料(お1人様)
2022年8月8日(月)まで	無料
2022年8月9日(火)以降	100%

※8月9日(火)以降の取消の場合、払い戻しはできかねますのでご了承ください。その場合は、資料のご送付で対応させていただきます。

※主催者判断により、大交流会の中止及び全面オンライン視聴へ開催を変更する場合は、大交流会参加費・昼食代は全額返金いたします。

■宿泊プラン(募集型企画旅行契約)旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除する場合

契約解除の日		取消料(お1人様)
旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	1. 6日目にあたる日以前の解除	無料
	2. 5日目にあたる日以降の解除(3、4を除く)	旅行代金の20%
	3. 当日の解除(4を除く)	旅行代金の50%
	4. 旅行開始後の解除又は無連絡不参加(不泊)	旅行代金の100%

10. 個人情報の取り扱いについて

お送りをいただきました個人情報については、連絡の為に利用させていただく他、お申し込みいただいた旅行において運送・宿泊機関等が提供するサービスの手配・受領の為に手続き、あるいは「いきがい・助け合いサミット in 東京」の円滑な運営の為に必要な範囲内で利用いたします。また、情報共有のため、主催者へ情報を提出し、利用させていただきます。

お申し込みの際には、必ず旅行条件書（全文）をご確認いただき、事前に内容をご確認の上お申し込みください。

旅行条件書（全文）：<https://www.jtb.co.jp/operate/jyoken/acedom.asp>

●募集型企画旅行契約

この旅行は（株）JTB（東京都品川区東品川 2-3-11 観光庁長官登録旅行業第 64 号。以下「当社」という）が企画・実施する旅行であり、この旅行に参加されるお客様は当社と募集型企画旅行契約（以下「旅行契約」という）を締結することになります。また、旅行条件は、下記によるほか、別途お渡しする旅行条件書（全文）、出発前にお渡しする最終日程表と称する確定書面及び当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。

●旅行のお申し込み及び契約成立時期

- (1) 所定の申込書に所定の事項を記入し、下記のお申込金を添えてお申し込みください。お申込金は、旅行代金お支払いの際差し引かせていただきます。
- (2) 電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段でお申し込みの場合、当社が予約の承諾の旨通知した翌日から起算して 3 日以内に申込書の提出と申込金の支払をしていただきます。
- (3) 旅行契約は、当社が契約の締結を承諾し、申込金を受領したときに成立するものとします。
- (4) お申込金（おひとり）旅行代金以内

●旅行代金のお支払い

旅行代金は旅行出発日の前日からさかのぼって 10 日目にあたる日より前（お申し込みが間際の場合は当社が指定する期日までに）にお支払ください。また、お客様が当社提携カード会社のカード会員である場合、お客様の署名なくして旅行代金、取消料、追加諸費用などをお支払いただくことがあります。この場合のカード利用日は、お客様からお申し出がない限り、お客様の承諾日といたします。

●取消料

旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除されるときは、次の金額を取消料として申し受けます。

契約解除の日		取消料（お 1 人様）
旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	1. 6 日目にあたる日以前の解除	無料
	2. 5 日目にあたる日以降の解除（3、4 を除く）	旅行代金の 20%
	3. 当日までの解除（4 を除く）	旅行代金の 50%
	4. 旅行開始後の解除又は無連絡不参加（不泊）	旅行代金の 100%

●旅行代金に含まれるもの

旅行日程に明示した運送機関の運賃・料金（注釈のないかぎりエコノミークラス）、宿泊費、食代、及び消費税等諸税
これらの費用は、お客様の都合により一部利用されなくても原則として払い戻しいたしません。

（日程に含まれない交通費等の諸費用及び個人的費用は含みません。）

●特別補償

当社は、当社又は当社が手配を代行させた者の故意又は過失の有無にかかわらず、募集型企画旅行約款別紙特別補償規程に基づき、お客様が募集型企画旅行参加中に急激かつ偶然な外来の事故により、その身体、生命又は手荷物上に被った一定の損害について、以下の金額の範囲において、補償金又は見舞金を支払います。

- ・ 死亡補償金：1,500 万円
- ・ 入院見舞金：2～20 万円
- ・ 通院見舞金：1～5 万円
- ・ 携行品損害補償金：お客様 1 名につき～15 万円
（但し、補償対象品 1 個あたり 10 万円を限度とします。）

●「通信契約」を希望されるお客様との旅行条件

当社提携クレジットカード会社のカード会員（以下「会員」といいます。）より「会員の署名なくして旅行代金や取消料等の支払いを受ける」こと（以下「通信契約」といいます。）を条件にお申し込みを受けた場合、通常の旅行条件とは以下の点で異なります。（受託旅行者により当該取扱ができない場合があります。また取扱できるカードの種類も受託旅行者により異なります。）

- (1) 契約成立は、当社が電話又は郵便で旅行契約の締結の承諾通知を発信したとき（e-mail 等電子承諾通知を利用する場合は、その通知がお客様の到達したとき）とします。また申込時には「会員番号・カード有効期限」等を知照していただきます。
- (2) 「カード利用日」とは旅行代金等の支払い又は払戻し債務を履行すべき日をいいます。旅行代金のカード利用日は「契約成立日」とします。また取消料のカードの利用日は「契約解除依頼日」とします。（但し、契約解除依頼日が旅行代金のカード利用日以降であった場合は、当社は旅行代金から取消料を差し引いた額を解除依頼日の翌日から起算して 7 日間以内をカード利用日として払い戻します。）
- (3) 与信等の理由により会員のお申し出のクレジットカードでのお支払いができない場合、当社は通信契約を解除し、規定の取消料と同額の違約料を申し受けます。ただし、当社が別途指定する期日までに現金による旅行代金のお支払いをいただいた場合はこの限りではありません。

●国内旅行保険への加入について

旅行先において、病気・けがをした場合、多額の治療費、移送費等がかかることがあります。また、事故の場合、加害者への損害賠償請求や賠償金の回収が大変困難であるのが実情です。これらの治療費、移送費、また、死亡・後遺障害等を担保するため、お客様自身で十分な額の国内旅行保険に加入することをお勧めします。詳細については、販売店の係員にお問合せください。

●事故等のお申出について

旅行中に、事故などが生じた場合は、直ちに同行の添乗員・現地係員・運送・宿泊機関等旅行サービス提供機関、又は、お申込店にご通知ください。（もし、通知できない事情がある場合は、その事情がなくなり次第ご通知ください。）

●個人情報の取扱について

当社及び販売店は、旅行申込の際に提出された申込書等に記載された個人情報について、お客様との間の連絡のために利用させていただくほか、お客様がお申し込みいただいた旅行において運送・宿泊機関等の提供するサービスの手配及びそれらのサービスの受領のために手続に必要な範囲内で利用させていただきます。

●旅行条件・旅行代金の基準

この旅行条件は 2022 年 3 月 1 日を基準としています。又、旅行代金は 2022 年 3 月 1 日現在の有効な運賃・規則を基準として算出しています。

承認番号：22-001

【お問い合わせ・お申し込み先】株式会社 JTB 横浜支店

「いきがい・助け合いサミット in 東京」受付デスク

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 3-29-1 第 6 安田ビル 6 階

TEL：045-316-4602 FAX：045-316-5701

E-mail: jtb_convention@jtb.com

[営業時間] 午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分（土・日・祝日休業）

担当：竹澤・佐藤・伴野

総合旅行業務取扱管理者：鈴木 智子

総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取扱う営業所での取引責任者です。この旅行の契約に関し、担当者からの説明にご不明点がございましたら、ご遠慮なく、左記の総合旅行業務取扱管理者にご質問ください。

会場のご案内

会場：グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール

東京都港区高輪3-13-1

■最寄り駅から会場まで

- 品川駅** <新幹線・JR線・京急線>
高輪口から徒歩約5分
- 高輪台駅** <都営地下鉄浅草線>
A1から徒歩約3分

※参加者専用駐車場のご用意は
ございません。



アクセス

羽田空港	リムジンバス 約45分	品川駅	高輪口から徒歩約5分
	京急線 最速11分、通常約25分	品川駅	高輪口から徒歩約5分
成田空港	リムジンバス 約90分	品川駅	高輪口から徒歩約5分
	JR特急成田エクスプレス 約75分	品川駅	高輪口から徒歩約5分
東京駅	京成成田スカイアクセス特急 約80分	品川駅	高輪口から徒歩約5分
	JR山手線 約12分	品川駅	高輪口から徒歩約5分
	JR京浜東北線(快速) 約11分		
	JR東海道本線 約8分		
JR横須賀線・総武本線 約8分			
新宿駅	JR山手線 約19分	品川駅	高輪口から徒歩約5分

※所要時間は目安です。



Webでのお申し込みはこちらから
東京サミット特設ページ
<https://summit.sawayakazaidan.or.jp>



さわやか福祉財団ホームページからも
お申し込みが可能です。
<https://www.sawayakazaidan.or.jp/>

公益財団法人さわやか福祉財団

〒105-0011 港区芝公園2-6-8 日本女子会館7F
TEL:03-5470-7751 FAX:03-5470-7755
E-mail:summit@sawayakazaidan.or.jp

サミット参加者に充実した資料をお渡しします

助け合い大全'22

パネル編	ポスター編	提言編
全体シンポジウム、全分科会登壇者の発言要旨等を収録	すべての応募ポスターをカラーで収録	全分科会の提言と議事要旨、全体シンポジウムの要約等を収録

「いきがい・助け合いサミット in 東京」にお申し込みいただいた全員にお渡しする冊子です。課題に取り組むヒントが満載です。地域づくりの取り組みにお役立てください。

※『助け合い大全'22』の『パネル編』『ポスター編』は事前に、『提言編』はサミット後にご送付いたします。